

## 編集後記

巻頭言は、4月1日付でお迎えした田中俊一新会長から頂きました。情報科学技術の将来展望及び当財団の目指すべき方向を示していただきました。当財団は、情報化時代を担う組織として、また、原子力情報のシンクタンクとしての展開をめざします。

また、日本原子力研究開発機構の矢木雅敏氏から核融合炉のシミュレーション研究についての論文をいただきました。情報・システム研究機構の松浦充宏教授から、日本列島域のプレート境界地震の定量的な発生予測のシミュレーションに関する論文をいただきました。日本原子力研究開発機構・J-PARCセンター中谷健氏からJ-PARCと計算科学の連携と題するテーマで世界最先端の実験施設と計算科学のコラボレーションによる実績と課題について論文をいただきました。これらの論文に共通して、計算機のリソースがまだまだ不足とのことです。一方、当財団の職員で現在理化学研究所に出向中の南一生氏のグループからは、次世代スーパーコンピュータの開発に向けた研究に関する論文をいただきました。

より高性能計算機の実現も間近なようで、まもなく研究者の方々の要望が叶えられる事となるでしょう。私は、はじめての「RIST NEWS」編集係でしたが、専門家の方々の御協力を頂き、無事刊行の運びになりましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、学術の分野では情報科学技術の発展が研究・実験のありかたを大きく進展させています。一方、身近なところに目を向けますと、最近iPadの登場もあって、電子書籍／電子雑誌に関する議論が非常に活発です。たとえば、従来の出版社と電子書籍の流通経路（アップル、アマゾン、グーグル）との出版に関する問題があります、誰でも手軽に執筆できるため執筆内容の質の低下の問題、書店の在り方に関する問題等、多いに議論されています。音楽の世界が、携帯音楽プレーヤーの出現により変貌したのと同じように、書籍／雑誌の世界も変貌を止めることは誰にも出来ないように思います。情報科学技術に携る一員として、このような変化の一翼を担っていきたいと思っています。（中村）